



▲木の皮を食べるシカ

▲三嶺の「さおりが原」 右写真は平成14年に撮影。希少植物も宿す豊かな森でした。左写真は平成19年に撮影。下草のマネキグサがシカの食害被害に遭い、林床砂漠化状態に。平成20年3月にシカの防護柵を設置し、マネキグサは蘇りました。シカが好んで食べる草木の中には、貴重な絶滅危惧種が含まれています。

冬季の田を活用した地下水涵養事業面積

(単位:a)

年度	合計
18年度	395.8
19年度	603.0
20年度	624.5
21年度	629.3
22年度	673.5
23年度	653.8
24年度	693.4



市では、野市町や吉川町、香我美町の地下水涵養能力の高い田を対象に、11月から2月の間、休耕田へ水をためてもらおう事業(1a当たり3,000円の補助事業)を実施しています。また、平成25年度から1,000aを目標に、積極的に涵養事業を推進していきます。

冬季の田を活用

市では各課が連携し、さまざまな水源涵養事業を実施しています。市では各課が連携し、さまざまな水源涵養事業を実施しています。市では各課が連携し、さまざまな水源涵養事業を実施しています。

市では各課が連携し、さまざまな水源涵養事業を実施しています。

雨水浸透枮の設置

地下水量の減少の一因に、都市化の進展があります。地下水涵養能力の高い地域が宅地化等でアスファルトやコンクリートに覆われ、雨水が地下に浸透しにくくなっています。このような状況に対応するため、市では開発の際に、雨水浸透枮の設置を義務付けています。また、ビニールハウスの雨水浸透枮の設置に、補助金を交付し、畑地での地下水涵養も推進しています。



▲ビニールハウスの雨水浸透枮

物部川等の河川流量の安定と地下水涵養を図るため、上流域の水源涵養林の間伐など、整備を行っています。

水源涵養林の整備

また、平成23年10月に、高知空港ビル株式会社と県および市の3者が「協働の森づくりパートナーズ協定」を締結し、市の保有する森林の再生を図っています。この協定により、3年間香我美町撫川字力ナツキの森林約88haが整備されています。

用排水路の底抜き

地下水量の減少の一因に、都市化の進展があります。地下水涵養能力の高い地域にト三面張に、底抜きを行い、水路から地下へ浸透させていきます。用排水路の幅は、1m以上を対象としています。必要に応じて1m以下でも実施します。ただし管理については、地域の皆さまにもご協力いただきますよう、ご理解をお願いいたします。

物部川を守る活動にみんなのチカラを！

シンポジウムの中で、香美森林組合の野島常総組会長は「山の保水力の低下は、戦後、国策によって増え続けた人工林の価格低迷や、山の手入れをする人の減少などで、十分な管理ができない状態になったことや、シカの食害による影響などが考えられます。しかし、このような状態になってしまったことを悔いるより、前を向いてどうすれば昔の環境を取り戻せるのかを考えて行かなければいけません」と訴えました。

まず、私たちにできること。山・川・海を一つに考え、みんなが少しずつ協力しあえる仕組みづくりを考え実行することが、物部川の再生に繋がります。



シカ食害防止ネットを木へ巻き付けているボランティア

人が生きていくためには、水はなくてはならないもの。家庭では、炊事や洗濯、風呂、水洗トイレで使うのをはじめ、飲食店やホテル、プール、学校などの公共の施設などでも多くの水が使われています。また、生活のための水だけではなく、農作物を作るための田や畑にも必要です。工場でも大量の水を使っています。水は人々の暮らしになくてはならないものです。このページでは、水資源を守っていくための市の対策や、2月9日に高知工科大学で行われた、物部川シンポジウムの内容を紹介しながら「水の恵み」について、皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。

高知工科大学の講堂で行われた「物部川を考えるシンポジウム」では、約200人の参加者が、香美森林組合や流域住民らの討論に耳を傾けました。これは、「物部川祭り実行委員会」物部川21世紀の森と水の会の主催で行われました。シンポジウムの内容を編集して紹介します。

物部川の恵み

標高1,770mの白髪山から太平洋まで約71kmの距離を下つていく物部川は、高知県の一級河川の一つです。江戸時代に野中兼山が、山田堰や灌漑用水を手掛け、物部川の豊富な水が香長平野の隅々まで行き渡るようになり、農業を発展させました。この恩恵は、現在も続いており、野市町の北部地域では、生産量日本一のニラ栽培の散水用などに利用されています。また、地下水は飲料用水や農業用水、工業用水などに利用されています。

山のチカラ

川の様子は、50年前と比べて随分変わってきました。水の源となる山の保水力は、林業の低迷で森林保全が進まなかったことや、生活環境の変化などから水源を守る人たちが山里から離れたり高齢化したことで、時代の流れとともに低下しています。また、平成5年の物部村の山火事の後、下草が生い茂ったことで、エサを求めてたくさんシカが移動し繁殖。増えすぎたシカは飢えをしのぐため、普段は食べない木の皮を食べ、次々と木を枯らしたことが、土砂流出の原因となっています。

人のチカラ

シカ食害防止ネットを木へ巻き付けているボランティア



2月9日(土) 物部川を考えるシンポジウム なんて濁っちゅうが?物部川

